聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2022 年
7 月 1 日発行
第 246 号

良いまとめをしよう！

暑い夏が始まりました。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご協力をいただき、深く感謝しております。生徒たちも新型コロナに付き合う日常を会得し、少人数の学校でもあり、ほぼ普通の学校生活をしております。

・毎日、朝、聖母に登校する＝日常、基本的生活力の獲得
・他の生徒と同じ空間にいる＝対人関係の 1 段階目
・人との交わりの中で少し話ができるようになる＝対人関係の 2 段階目
・交わりの中で話し合うことができるようになる＝対人関係の 3 段階目
・他の人のために考えたり、行動するようになる＝対人関係の 4 段階目

この対人関係の 4 段階目は「共生する」ということです。社会的自立の必修条件です。ちなみに先日、生徒たちと読んだ新聞記事によると、英国のチャリティーズ・エイド財団が 114 の国、地域を調査したところ、「共生」即ち「世界人助け指数（見知らぬ人を助けたか、ボランティアに参加したか、寄付をしたか)」は日本が 114 位＝最下位だったそうです（2022.6.27 朝日新聞)。やはり、青少年の時に「他者への共感、思いやり」を体験によって育ててゆきたいものです。

また、新型コロナ蔓延の中、社会には「1 人がいい」という人が増えています。「人は 1 人では生きられない」ということが分かっていても…。そして、今、全国の不登校の小中高生が 239,178 人です。特に一昨年、昨年の急激な増加は教育の現場に危機感を与えています。そして本年 6 月に文部科学省より「不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒の学習機会と支援の在り方について～」が公表されました。その中で、本校の教育の 3 本柱のひとつにもなっている「保護者を支援する」ことについて、「児童生徒への支援と共に、保護者が抱える不安や困難に寄り添った支援を行っていくことも重要であること」、更に「不登校児童生徒を抱える保護者の経験が蓄積され、共有されるべきである」、また、「当事者目線で語られる経験は同じ悩みを抱える保護者の大きな支えや前進力となる」としています。これらは、本校が卒業生の保護者と現役生の保護者との様々な交流・保護者会等を通して 30 余年実施してきたことです。当事者の心の底から出た考え、言葉（当事者が困難を生きて得られた「今」の言葉）は、現役の保護者や生徒を励まし、明日を生きる力になりました。

6 月 23 日に実施した月例保護者会には、5 家族の出席がありました。本校の顧問である大塚喜直京都司教区司教の視察参加がありました。OB の父親が 2 名出席し、発言してくださいました。その 1 部を紹介します。

「子どもが学校に行かなくなった時、なぜ行けないんだ！と叱り、原因は何だと、そればかり探っていた。どこまで探っても答えは出てこなかった。今思うと、探るべきではない。また、不登校は子どもの問題で自分には関係がないことだ、だから何で自分が聖母に相談に行ったりしなければならないのだ、と腹立たしく思っていた。家内に引っ張られて嫌々行っていたが、そのうち、門を入る時は『嫌だなぁ』と思っていたが、相談が終わり、門を出る時、なにかさわやかな気持ちになっていった。その頃から子どもを見、子どもの気持ちに触れられるようになった。子どもはこの経験（不登校）を通して変わる。

その後、充実した高校生活をし、大学へ行って、社会人になっていった。最初の頃を思うと、子どもに悪いことをしたなぁと思う。」
「自分の子どもも小学校1年から別室に行ったり、学校にだんだん行けなくなって、ずっと家にいるようになった。表情はなく、能面のようになって、全くしゃべらなくなってしまった。中学になって、先生から聖母を紹介されて見学し、ここなら行けるかもしれないと、聖母に行くようになった。徐々に表情が出てきて、1年経った頃、聖母で初めてしゃべった。その連絡を妻からもらった時、妻と一緒に喜んだ。うれしかった。その連絡のメールは今もとってある。」
「原籍校は、どうしても『どうしたら学校に来れるか』は考えるけど、『この子がどこで困っているか』は考えないのではないか。親は子どもを良く見て、そこを考えていくことが大切だと思う」
「どうしても将来を心配してしまうが、今、一生懸命やることだけを思って行動することが大事だと思う。朝、起きるようになったとか、ご飯を食べるようになったとか。今を見ればいい」
など、多くの発言がありました。当事者だから言える事でした。現役の保護者が大きく励まされました。「子どものありのままを見る。そこから共に今日を生きる」。少し決意を新たにできました。保護者会は毎月あります。本校の生徒の保護者でなくとも参加できます。どうぞご参加ください。
　また、生徒たちにも変化が見えています。これまで、他の生徒が下校したあとに「出席」することを目的に10〜15分登校していた生徒が、最近は、他の生徒のいる時に登校し、授業に参加したりしています。こういうことが簡単にできるわけではなく、3年も4年もかかっています。大きな変化のない日々を耐え、また、小さな行動を積み重ねてきたから持てた変化です。
　また、ある生徒は、本当の自己肯定感を、仲間との日々の対話を通して得ようとしています。自分の現実の姿を「自分の困りごとに気づかぬふりをしている自分、悲しい自分」と表現して、初めて人の前に吐露し、「自分は、人には近づいたり、声をかけたりしない方がいい、いない方がいい人間なのだ」と言いました。それに対して、そこにいた仲間が「〇〇さんが休むといやだ。来てくれたほうが嬉しいよ」と言いました。その関係を日々の学校生活で体験しているようです。この関係を更に育てていきたいと思います。雨の中の「大江山・日本の鬼の交流博物館」遠足、高浜漁港での海釣り、それぞれ楽しく交流できたことは、人への信頼を育て、行動の活性化につながりました。
　あとひと月で終業式です。良いまとめをしたいものです。保護者は原籍校の担任と1学期の振り返りをしてください。よろしくお願いいたします。

6/7 遠足「日本の鬼の交流博物館」

6/15　釣り大会（高浜漁港）

＜今月の主な行事＞

1日（金）・8日（金）理科（中岡先生）
4日（月）・7日（木）ウズベキスタン学習
5日（火）・13日（火）ギター教室（北浦先生）
6日（水）体育（渡邊先生）
15日（金）華道教室
17日（日）学期末保護者会
20日（水）1学期終業式
26日 or 27日　カヌー教室 in 和知